

(?) 盛り上がりを見せました。最後にになりましたが、本会が盛会となりましたのも、ひとえに肥後医育振興会様のご協力、ご支援の賜であり、あらためてこの場をお借りしまして、心より御礼を申し上げます。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

第二十五回日本乳癌学会学術総会報告

熊本大学大学院生命科学研究部 乳腺・内分泌外科学分野 教授 岩瀬 弘敬

二〇一七年七月十三日～十五日に福岡マリンメッセ、福岡国際会議場で第二十五回日本乳癌学会学術総会を開催いたしました。熊本大学乳腺・内分泌外科が主催する全国学会でありながら、総会の規模やコンセプトから福岡での開催となり、熊本大学および肥後医育会の皆様方にはご迷惑、ご心配をおかけ致しました。お陰様で、参加者は六千百名を超え、滞りなく学術総会を終えることができました。参加された先生方からは良い学術集会であったとの声を頂くことが度々あり、達成感の高い学会でした。

学会テーマは「ライフサイエンス研究の進歩」としました。メインゲストのペイラー大学の Matthew Ellis 先生からは「Precision medicine for breast cancer」という題で米国におけるゲノム医療の最先端を拝聴することができました。がんゲ

ノムについては各種がんにおいて注目されている領域ですが、乳癌においても、遺伝性乳癌、新しい技術による遺伝子変異の同定、それによる新しい薬剤や効果予測因子の検討などについて議論されました。シンポジウムでは、免疫チェックポイント阻害薬による新しい免疫療法、分子標的薬法の進歩、YAM世代乳がんの治療方針、整容性の高い乳癌手術、新しい臨床研究の在り方、などに焦点を当てました。

この学術集会では、できるだけ情報を共有したいとの目的で、特別講演やシンポジウムをマリンメッセに四千席を用意し、九つの大きなスクリーンに演者やスライドを投影して、どこからでも明確に内容が確認できるようにしました。ランチョンセミナーは国際会議場の別会場で行い、メイン会場のそれぞれのスクリーンに中継しました。さらに、スマートフォンなどのタブレット端末でも視聴可能として、会場間の移動をできるだけ少なくするようにしました。「再発乳がんの治療方針」のパネルディスカッションでは海外招待演者十五名と我が国のオピニオンリーダーの三名ほどにご登壇いただき、端末を用いた投票システムによりケーススタディにおけるパネラーの意見と一般参加者の意見とを比較検討し、深い議論が行われました。

関連事業に関して、十月二十七日にはホテル日航熊本で「市民公開講座」ならびに「乳がん患者フェスティバル」を開

催しました。市民講座では「正しく知ろう 乳がんのこと」と題して、乳癌の遺伝、手術、薬物療法、緩和医療に関して、指宿睦子准教授、山本豊准教授、陶山浩一講師、吉武淳教授の講演と、遠藤文夫常任理事、山本哲郎副理事長のご挨拶を頂きました。患者フェスティバルでは患者と医療者が一緒になって練習をつんだ合唱をくまモンと一緒に披露し、一日中皆で楽しみました。

最後になりますが、ご参加いただいた皆様、招聘講演者の皆様、ならびに開催に当たってご協力ご支援いただいた関係機関の皆様、特に肥後医育振興会の皆様

様におかれましては、本学会に多大なるご支援を頂きまして、心から感謝申し上げます。

第二十七回国際喘息学会日本・北アジア部会の報告

社会保険大牟田天領病院院長
熊本大学名誉教授

会長 興 裕 博次

平成二十九年十月五日、六日の二日間 にわたり、第二十七回国際喘息学会日本・北アジア部会を『喘息患者に満足していただけのために最新臨床医学と基礎医学』をテーマにホテル日航熊本にて開催致しました。約五百名の参加をいただき日常臨床の問題点、生物学的製剤や気管支熱形成術、アレルギー免疫療法などの新たな治療、基礎研究、また、がん免疫と多岐にわたる報告、講演が行われました。

招聘講演として韓国より Sang Heon Cho 教授 (Seoul National University)、香港より Ting Fan Leung 教授 (The Chinese University of Hong Kong, Prince of Wales Hospital)、イギリスより Peter Howarth 教授 (Professor of Allergy and Respiratory Medicine, University of Southampton)、熊本大学生命資源研究・支援センター 西村泰治シニアに講演いただきました。また、五題の特別講演、シンポジウム、ランチョンセミナー、会長講演、一般演題と多くの情報交換の機

